

第4問（個別原価計算）

1. 直接材料費の計上

(1) #11001

$$850\text{kg (直接材料消費量)} \times 500\text{円 (予定消費単価)} = 425,000\text{円}$$

(2) #11002

$$1,240\text{kg (直接材料消費量)} \times 500\text{円 (予定消費単価)} = 620,000\text{円}$$

(3) #11003

$$1,100\text{kg (直接材料消費量)} \times 500\text{円 (予定消費単価)} = 550,000\text{円}$$

(4) 直接材料費の計上（仕訳(1)の解答）

$$425,000\text{円 (#11001)} + 620,000\text{円 (#11002)} + 550,000\text{円 (#11003)} = 1,595,000\text{円}$$

2. 製造間接費の予定配賦

(1) 予定配賦率

① 固定費率

$$8,100,000\text{円 (年間固定費予算)} \div 18,000\text{時間 (年間予定機械稼働時間)} = 450\text{円}$$

② 予定配賦率

$$280\text{円 (変動費率)} + 450\text{円 (固定費率)} = 730\text{円}$$

(2) 予定配賦額

① #11001

$$420\text{時間 (機械稼働時間)} \times 730\text{円 (予定配賦率)} = 306,600\text{円}$$

② #11002

$$610\text{時間 (機械稼働時間)} \times 730\text{円 (予定配賦率)} = 445,300\text{円}$$

③ #11003

$$380\text{時間 (機械稼働時間)} \times 730\text{円 (予定配賦率)} = 277,400\text{円}$$

④ 合計（仕訳(2)の解答）

$$306,600\text{円 (#11001)} + 445,300\text{円 (#11002)} + 277,400\text{円 (#11003)} = 1,029,300\text{円}$$

3. 製品完成高の計上

(1) #11001

① 直接労務費

$$200\text{時間 (直接作業時間)} \times 1,100\text{円 (予定平均賃率)} = 220,000\text{円}$$

② 製造原価

$$311,000\text{円 (月初仕掛品原価)} + 425,000\text{円 (直接材料費)} + 220,000\text{円 (直接労務費)} \\ + 306,600\text{円 (製造間接費)} = 1,262,600\text{円}$$

(2) #11002

① 直接労務費

$$350\text{時間 (直接作業時間)} \times 1,100\text{円 (予定平均賃率)} = 385,000\text{円}$$

② 製造原価

$$620,000\text{円 (直接材料費)} + 385,000\text{円 (直接労務費)} + 445,300\text{円 (製造間接費)} = 1,450,300\text{円}$$

(3) 製品完成高の計上（仕訳(3)の解答）

$$1,262,600\text{円 (#11001)} + 1,450,300\text{円 (#11002)} = 2,712,900\text{円}$$

4. 直接材料費の消費価格差異

(1) 直接材料消費量合計

$850\text{kg} (\#11001) + 1,240\text{kg} (\#11002) + 1,100\text{kg} (\#11003) = 3,190\text{kg}$

(2) 実際消費額

$650\text{kg} (\text{月初在庫数量}) \times 520\text{円} (\text{月初購入原価})$

$+ \{3,190\text{kg} (\text{消費量合計}) - 650\text{kg} (\text{月初在庫数量})\} \times 540\text{円} (\text{当月購入原価}) = 1,709,600\text{円}$

(3) 消費価格差異

$1,595,000\text{円} (\text{予定消費額}) - 1,709,600\text{円} (\text{実際消費額}) = \Delta 114,600\text{円} (\text{借方差異})$

5. 製造間接費配賦差異 (仕訳(5)の解答)

(1) 機械稼働時間合計

$420\text{時間} (\#11001) + 610\text{時間} (\#11002) + 380\text{時間} (\#11003) = 1,410\text{時間}$

(2) 製造間接費配賦差異 (貸方: 製造間接費の金額)

$1,029,300\text{円} (\text{予定配賦額}) - 1,077,900\text{円} (\text{実際発生額}) = \Delta 48,600\text{円} (\text{借方差異})$

(3) 予算差異

$\{1,410\text{時間} (\text{機械稼働時間合計}) \times 280\text{円} (\text{変動費率}) + 8,100,000\text{円} (\text{年間固定費予算}) \div 12\text{ヶ月}\}$
 $- 1,077,900\text{円} (\text{実際発生額}) = \Delta 8,100\text{円} (\text{借方差異})$

(4) 操業度差異

$\{1,410\text{時間} (\text{機械稼働時間合計}) - 18,000\text{時間} (\text{年間予定機械稼働時間}) \div 12\text{ヶ月}\}$
 $\times 450\text{円} (\text{固定費率}) = \Delta 40,500\text{円} (\text{借方差異})$

東京CPA会計学院からのお知らせ

【自分の未来を考えるセミナー『未来塾』を開催します】

- ・何のために働くのか?
- ・本当の学力を身に付けること、とは?
- ・考える力を身に付けること、とは?

これからの進路について、一緒に考えましょう。

開催日時: 11/29 (13:00~16:30)

【体験入学会のご案内】

東京CPA会計学院では、『体験入学会』を開催しています。当日は授業体験の他、様々な相談にもお答えいたします。自分の未来を真剣に考えてみませんか?
ご家族の方も、ぜひ、お気軽にご参加下さい。

開催日時: 11/22 (10:00~15:00 昼食付)

詳しくはwebまた下記の連絡先まで。

web. <http://www.cpa-net.ac.jp/>

mail. cpa@cpa-net.ac.jp

tel. 0120-55-1937 (月~土: 9:00~19:00)

第5問（減損を含む単純総合原価計算）**問1** 減損が終点発生の場合

1. 生産データの整理（単位：kg，かつこは加工換算数量）

月初仕掛品 800 (400)	完成品 3,000 (3,000)
当月投入 3,000 (3,200)	正常減損 200 (200)
	月末仕掛品 800 (400)

2. 月末仕掛品原価

正常減損が終点発生のため，完成品のみ負担となる。

(1) 原料費

$$9,120,000\text{円（原料費合計）} \times \frac{800\text{kg（月末仕掛品）}}{3,000\text{kg（完成品）} + 200\text{kg（正常減損）} + 800\text{kg（月末仕掛品）}}$$

$$= 1,824,000\text{円}$$

(2) 加工費

$$8,323,200\text{円（加工費合計）} \times \frac{400\text{kg（月末仕掛品）}}{3,000\text{kg（完成品）} + 200\text{kg（正常減損）} + 400\text{kg（月末仕掛品）}}$$

$$= 924,800\text{円}$$

(3) 合計

$$1,824,000\text{円（原料費）} + 924,800\text{円（加工費）} = 2,748,800\text{円}$$

3. 完成品総合原価

(1) 原料費

$$9,120,000\text{円（原料費合計）} - 1,824,000\text{円（月末仕掛品原価）} = 7,296,000\text{円}$$

(2) 加工費

$$8,323,200\text{円（加工費合計）} - 924,800\text{円（月末仕掛品原価）} = 7,398,400\text{円}$$

(3) 合計

$$7,296,000\text{円（原料費）} + 7,398,400\text{円（加工費）} = 14,694,400\text{円}$$

問2 減損が工程の途中で発生した場合

1. 生産データの整理（単位：kg, かっこは加工換算数量）

月初仕掛品 800 (400)	完成品 3,000 (3,000)
当月投入 3,000 (3,100)	正常減損 200 (100)
	月末仕掛品 800 (400)

(注) 正常減損の発生点が不明なため、便宜上加工進捗度50%の地点で発生したものとする。

2. 月末仕掛品原価

正常減損が工程の途中で発生したため、月末仕掛品と完成品の両者負担となる。

(1) 原料費

$$9,120,000\text{円 (原料費合計)} \times \frac{800\text{kg (月末仕掛品)}}{3,000\text{kg (完成品)} + 800\text{kg (月末仕掛品)}} = 1,920,000\text{円}$$

(2) 加工費

$$8,323,200\text{円 (加工費合計)} \times \frac{400\text{kg (月末仕掛品)}}{3,000\text{kg (完成品)} + 400\text{kg (月末仕掛品)}} = 979,200\text{円}$$

(3) 合計

$$1,920,000\text{円 (原料費)} + 979,200\text{円 (加工費)} = 2,899,200\text{円}$$

3. 完成品総合原価

(1) 原料費

$$9,120,000\text{円 (原料費合計)} - 1,920,000\text{円 (月末仕掛品原価)} = 7,200,000\text{円}$$

(2) 加工費

$$8,323,200\text{円 (加工費合計)} - 979,200\text{円 (月末仕掛品原価)} = 7,344,000\text{円}$$

(3) 合計

$$7,200,000\text{円 (原料費)} + 7,344,000\text{円 (加工費)} = 14,544,000\text{円}$$